

●車の走行を許可する道路を都市計画で決めるような時代に

私の姪は米国育ちだが、大学を卒業すると日本で就職してしまった。その理由は、米国では車を運転しないと生活できないが、運転はきらいだからとのこと。だが日本でも地方都市は車なくして暮らしていくのは極めて困難になってしまった。しかもその車は、都市のどのような細い道でもお構いなく突っ込んでくるので、おちおち歩いていることもできない。

明治の初期は太政官令で車馬は路地の通行を禁止されていたと聞いたが、いつから車はどこでも走って良いことになったのであろうか。しかも広幅員の道路が縦横に走り、高齢者はその横断が困難なため、ますます外出できない。私の子供の頃は朝から晩まで道で遊んでいたが、その後車が我が物顔にのさばりだし、子供は屋外で遊ばないようにと指導され、現在は家の中に閉じこもっている。車の運転の嫌いな人、高齢者、子供にとって誠に不幸な社会になったもので、車に乗る人はその人達の犠牲によって車のメリットを享受していることをよく認識してもらいたい。

また都市計画の中で、土地利用とともに交通政策を位置づけることが必要である。しかし、交通計画権はどこに所属するのか全く不明であり、都市計画の中で、ある地区への車抑制をしようとしても交通警察が決定権を握ってしまって、車社会からの脱却もままならない状況である。車の走行を許可する道路を都市計画で決められるような時代がきて欲しいと思う。

今井 晴彦（技術顧問）

●商店街を一つの店に

今年は横浜開港150周年ということで、開国博Y150をはじめとした様々なイベントが開催され、横浜全体が盛り上がっている。横浜市内の商店街もこれにあやかり「横浜開港150円商店街」なるイベントを横浜市商店街総連合会が主催者となり、加盟する市内の商店街で一斉に開催している。このイベントは、商店街を100円ショップならぬ「150円ショップ」に見立て、各店舗で150円の商品や150に因んだサービスを販売・提供するもので、今年の6月から来年の2月まで偶数月第2土曜日に開催される。

このイベントの手本とされたのが、山形県新庄市で平成16年から始められた『新庄100円商店街』である。衰退した中心市街地の商店街に消費者の足を向けさせるきっかけとして始められたイベントで、NPO-AMPの若手メンバーにより考案され、今では全国20余の自治体で同様の取り組みが実施されているようだ。

この取り組みの特色の一つに、歩行者天国をつくらないことがあげられていた。せっかく集まった客を道路の中央に固まらせないで、店舗と客との距離を縮めさせ、あえて人混みを作り出すことが集客効果を上げるというのである。歩道が設置されている商店街では、この手法は有効かと思われるが、歩道のない商店街では買い物客の安全性を考慮すると、通行車両を排除することが必然的な傾向となるであろう。そういう商店街では、店舗と客との空間を狭める仕掛けが必要となる。自転車通行帯を道の真ん中につくり、歩行者を店側に寄せるのも一つの手かもしれない。

鈴木 一郎（第一計画部）

発行責任者：代表取締役 庄山 高司
事務局：株式会社アルメック 業務部
東京都目黒区青葉台 1-19-14
電話 03-5489-3211・FAX 03-5489-3210
Eメール hotnews@almecc.co.jp
ホームページ <http://www.almecc.co.jp/>